



発行 平成26年3月末日(年1回発行)  
 発行元 東京潮陵樽中会  
 事務局 〒177-0042  
 東京都練馬区下石神井3-19-9  
 大浦辰次郎方  
 Tel 045-933-0096 (岸田方)  
 e-Mail info@choryo.org  
 HP http://www.choryo.org/

会報11号 March 2014

## 会長挨拶 | 佐々島 宏(65期)

65期の佐々島 宏です。

今回、会長に就任いたしました、佐々島宏です。当番期の時に、47期上野淑子さんにお声をかけていただき、その時卒業生関係企業の福引を企画し始めた事から、当時の苔米地会長から常任幹事の指名を受け、お手伝いをし始めました。

仕事は、建築設計事務所での設計や街づくりを34年間継続のかたわら14社の会社設立や企業のコンサルティングを行ってきました。書生や囑託・顧問の経験はありますが、勤めた経験無く、皆様のご指導を仰がなければいけない事と考えております。

先日、「デブ」と「ひげ」の会長は初めてとの先輩の言葉があり、時代の流れと皆様に諦めて頂くしかないかなと考えております。

### 東京潮陵樽中会の現状

例外なく、本会も会員の減少と個人情報保護法などの影響もあり会員予定者名簿も極端に減っており、継続する為には新たな方向性模索が必要です。昨年、当番期のメンバーが参集して頂いたものの誰ひとり会員にはならず、この事を含め会員離れは自分たちの姿勢に問題がある事を実感致しました。

### 歓迎する事から始めよう!

思い出すのは、我々は、潮陵入学時[対面式]という異常な歓迎を受け、新たな出発をしました。ごちそうもされていない先輩から、「当番だからやりなさい!」と言われても・・・しっかり「歓迎から始めなければ」そしてこの歓迎を次の世代に・・・という思いで、来年度からは、新関東人歓迎!新社会人歓迎!の企画に、時期を変更し会運営を開始しようと考えております。

### 同期会の手助けをしよう!

大浦会長のサポートも同期の結束が、大きな力となりました。私も、60歳 & 大震災をきっかけで、同期が集まったことから支援を受けました。昨年の当番期も同期の結束はとても良かったです。節目に同期で会えるお手伝いができないか? この事を、同期会支援優先で、名簿整理も徐々にできると信じ、本会の事業とします。支援希望やご協力して頂ける同期会があれば、一緒に支援します。

### 潮陵に、小樽に何か支援をし続けよう!会に夢と希望を!

お酒の好きな方はもちろんの事、たまに互いの元気を分かち合う交流会は、とても意味のある人生の行事。加えて、母校や小樽に恩返しをしたい気持ちは、皆さん持たれています。そこで、母校や小樽を支援できる何かの形を構築しようと考えており、潮陵倶楽部と協力し、支援事業を模索する事になりました。潮陵の同窓会館にデスクを持ち、始動し始めました。

支援活動情報を聞きほほえましく思う事ができる事業、たまに訪問した小樽で支援成果を訪ねる事ができるような何かを研究開発しようと考えております。ご意見ありましたら是非お聞かせください、お待ちしております。

皆様のご支援無くしては成り立たない私です。次へのリレーが叶いますように、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。(平成25年度総会にて)



## 平成25年度総会開催報告

第57回定時総会、懇親会は、平成25年7月20日(土)13時30分より銀座プロッサム(中央会館)において開催されました。総会では校歌斉唱、物故者黙祷、大浦辰次郎会長挨拶に続き、今日出夫副会長を総会議長として選出し、以下の各議案について審議しました。

1. 第56回(平成24年度)事業および会計報告
2. 役員改選の提案:会長 大浦辰次郎、副会長 梅田宏、監事 牧野藤厚の退任。新会長 佐々島宏氏(65期)、新監事 佐竹茂市郎氏(63期)の推薦
3. 第57回(平成25年度)事業計画、収支予算について佐々

### 島新会長から報告

いづれも満場一致で承認され、第57回(平成25年度)定時総会は無事終了致しました。なお、新人事は次の通りとなりました。

- 顧問: 大浦辰次郎(54期)  
 会長: 佐々島宏(65期)  
 副会長: 仲川正子(56期)  
 副会長: 今日出夫(67期)  
 監事: 佐竹茂市郎(63期)  
 事務局長: 岸田仁(67期)  
 事務局次長: 福井早枝子(65期)

科目	予算	実績	
		金額	小計
1 当期収入 (A)	1,550,050		1,708,228
1.1 定常収入	850,000		855,094
1.1.1 年会費	400,000	416,000	
1.1.2 寄付金	300,000	335,094	
1.1.3 広告代	120,000	74,000	
1.1.4 助成金	30,000	30,000	
1.2 事業収入	700,000		853,000
1.2.1 総会	350,000	370,000	
1.2.2 新年交礼会	350,000	483,000	
1.3 その他収入	50		134
2 当期支出 (B)	1,550,000		1,622,082
2.1 ウェブ・会報(事業計画3,4)	630,000		538,280
2.1.1 ホーム・ページ	50,000	52,626	
2.1.2 会報	580,000	485,654	
2.2 事業 (事業計画1,2)	700,000		850,976
2.2.1 総会	350,000	370,739	
2.2.2 新年交礼会	350,000	480,237	
2.3 事務局関係費	220,000		232,826
2.3.1 事務局費	40,000	17,141	
2.3.2 会議費	170,000	215,370	
2.3.3 雑費	10,000	315	
当期予算収支差額(C) [(A)-(B)]	50		86,146
事業計画6の支出(D) (110周年協力金)	100,000		95,000
事業計画6実施後の当期収支(E) [(C)-(D)]			▲ 8,854
前期繰越額 (F)	883,721		883,721
次期繰越収支差額(E)+(F)	883,771		874,867

※ 110周年協力寄付金 (収支外の個人寄付) 205,000円 (12名会員より)

総会に引き続き懇親会が催されました。  
大浦辰次郎前会長の功勞に対し、謝辞として本間榮一氏(54期)からスピーチと現役さながらの歌声を披露して頂きました。  
安宅忍氏(49期)からは、さすがは現役の舞台俳優と唸られる、軽妙洒落なスピーチを頂きました。  
上野淑子氏(47期)からは、遡ること数十年にわたる東京潮陵樽中会の歴史と絡め、大浦前会長のご苦勞、ご尽力を窺わせる数多のエピソードのご紹介をいただきました。  
和気あいあいとした歓談の後、恒例のくじ引き大会を行い、締めには最年長出席者の樋口弘氏(36期)から健康の秘訣に関するお話を頂くと共に、同氏の音頭により万歳三唱を行い、お開きとなりました。



## 退任のご挨拶 顧問(前会長) 大浦辰次郎(54期)

同窓の皆様、大変長い間お世話になりました。これまでの9年間、皆様の暖かいご支援と裏方で頑張って頂いた役員、事務局の方々のお蔭様で無事、勤めることが出来ました。本当に有難うございました。

いろいろな方の応援を頂きました。特に前がやるなら応援するとか、同窓会運営他に多大なる御助言頂いた45～49期の皆様には感謝に堪えません。はじめに心より御礼申し上げます。

在任中、①先輩から引き継いだHPの立ち上げ、②本会50周年記念式典の開催、③母校110周年記念事業協賛金200万円の募金達成(関東在住の同窓へ呼びかけによる)を成し遂げさせて頂きました。ひとえに会員及び同窓の皆様のお力添えの賜物です。有難うございました。会費納入の会員増加は未だの感がございましたが、期中決算では赤字を無くすことが出来たのでは・・と思っております。



同期会は横、同窓会は縦糸の絆であることを念頭に運営して参りましたが、一番強く感じましたのは情が無ければ糸は切れるものだという事です。先輩を敬い、後輩を愛する気持ちが大事としみじみと思えます。

これからの運営を託した新会長、佐々島宏さん(65期)は、若く(60才を越えてはいますが)バイタリティある方です。時代に即した新しい同窓会を作り上げて頂けるのでは・・と期待しております。私同様、御支援の程宜しくお願い致します。

最後に皆様のご健勝とご活躍を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。本当に長い間有難うございました。



【28期】樋口健三（横浜市）商船三井系海運会社東京本社（銀座）に永年勤務。横浜在住45年、現在97才で週二回近くの仲間と囲碁を楽しんでいます（6段）。

【34期】和田克己（小平市）最近一段と足腰の衰えを感じるようになってきましたが、何とか過ごしております。

【35期】佐藤精一（横浜市）91才になりますので外出は付き添いがないと出られません。

【36期】上田正直（小金井市）元気にやっています、昼寝しながら。千葉誠一（下野市）傘寿となりましたが、今の処未だ元気です。樋口弘（流山市）老化と病気治療の副作用には苦労しておりますが、活力を失わないよう頑張っております。

【37期】田中誠也（柏市）ほとんど連絡とれません。生きてるだけです。田中正良（さいたま市）命に係わる病から免かれ、何とか生きています。田村鉄弥（川崎市）大病はないのですが、老化は十分に進んでいます。近くの公園に花を観に行く位が限度です。

【39期】和泉哲雄（さいたま市）相変わらず元気にくらして居ます。

【40期】中村厚一（川崎市）7月以降、長野県軽井沢町へ移転します。

【42期】勝田晴夫（八千代市）年令ですので足、膝が弱り遠出は出来ません。相変わらず孫達と一緒に暮らして毎日を過ごしております。小林幸郎（四街道市）個人的・社会的、国家的に深刻な閉塞状況が続く、胸が潰れる思いですごす毎日です。

【43期】早見弘（目黒区）82歳になりました。3年生のとき終戦、波乱の日本でした。しかし4～5年の2年間で、勉強のくせをつくり、小樽高商～商大へ、そして一橋大の大学院へ、母校に拾われ教職40年。間所一郎（我孫子市）加齢に伴う体力の低下を毎日実感させられています。同期生に会う機会もめっきり減りました。山口保（世田谷区）老化防止の為、中国語を個人教授の下猛勉中です。

【44期】五十嵐浩（千葉市）時々原因不明の熱が出ます。その時は入院させられますが、普段は元気にしています。草野武（調布市）酒はやめました、ゴルフは続けています。鬼頭建治郎（所沢市）お蔭様で元気で余生を楽しんでおります。本間正和（三鷹市）相模原協同病院脳神経外科、院長、顧問を経て現在介護老人保健施設診療所で老人の健康管理や相談にのっている所です。（高商2期）渡邊隼雄（三浦市）小樽と同じような海の見える、三浦で元気に……。80才を超え、バイクに乗って「趣味の野菜づくり」のボランティアに精を出しています。無農薬の自家製品は最高です！

【45期】松橋健司（取手市）「一字はがき」の見本帖、出版しました。頒布価格は送料込で850円です。山部清一（八王子市）いまのところ息災です。

【46期】工藤孝友（札幌市）静穏。島雄一（横浜市）先日検診で病院にいきました。医者曰く、「老いる」「ボケル」「死ぬる」これみな正常。光陰矢の如し、樽中時代が懐かしく思いだされました。梅雨空に紫陽花が美しく咲いています。桶谷米四郎（恵

庭市）透析治療をはじめから3年目になります。気分は元気ですが、体力は極めておちております。絵画、読書、散歩などの日課で楽しい日々です。今しばらく長生きしたいと念じております。川越重義（横浜市）一病息災にて、趣味（俳句、水墨画）に専念しております。須賀芳睿（千葉市）樽中、潮陵高、なつかしく思い出します。中山茂博（横浜市）年令を忘れて、毎日楽しく生活が出来るように、何事にも前向きに考えております。そうなった時はそれで良い！中山条爾（柏市）80歳になりました。北海道新幹線に乗って小樽に行きたいが……。どうかしら。本間佳（横浜市）お陰で満81才になりました。今年も8月に富士山の登頂としまなみ海道のサイクリングを10月にやるつもりです。宗像静子（文京区）この夏80才になります。何とかやっております。望月富美（富士見市）八十才になりましたが今のところ変わりなく過ごしております。渡辺光三郎（横浜市）今年5月で傘寿になりましたが、友人と会ったり、庭仕事に専念しています。

【47期】上野淑子（横浜市）4月16～28日ロンドン・パリへ娘と行って来ました。娘がロンドンマラソン出場に応援。金子明石（松戸市）現在ガン治療中です。体調の良い時は家の近くをゆっくり散歩したりなど軽い運動をしています。佐々木信（市川市）特に変化ありませんが、年々時の経つのが早くなります。殿内俊次（銚田市）78才の私に4月4日男の初孫が授けられました。主の恵みに感謝です。藤川五百子（杉並区）7月早々に小樽に参り、9月に帰ってくる予定です。小樽の空気を満喫してまいります。宮本和明（大和市）すこぶる元気。さて、今手元に紐解いている書籍『伊藤整』桶谷秀昭新潮社1999.4.15刊（内容は評伝）がある。彼、伊藤整氏は生粋の小樽人。わが潮陵（旧制小樽中学）の生んだ20世紀の日本文学界を代表する偉大な稀有の文学者（詩人・小説家・翻訳家・随筆家）・文芸評論家である。氏の文学者としての功績を称えた文学賞がある。商都小樽を文化都市としての名声を高らしめる一端を担ってきた唯一の文学賞・伊藤整文学賞の存在である。この文学賞の存在価値と評価を小樽の誇るべき文化業績と考え密かに誇りに感じてきた。友人知人にも文学論議の際、よく披瀝してきた。それが、何と何と小樽市の財政難のため来年度を以って『悲しき終焉』を迎えると聞く。人により『たかが文学賞』という人もいる。されど天下の伊藤整文学賞の悲しき終焉の示唆するものは何か。『たかが文学賞、され

有限会社 チカラビル  
有限会社 栄伸企画

代表取締役

上野 淑子

(47期)

東京都千代田区神田小川町1-7  
横浜市港北区篠原北2-13-12  
TEL/FAX 045-421-6121



ど名だたる文学賞」僅かの金銭・資金捻出の工夫に欠けた結果、文化果つる都市と化し歩み始めた小樽市の未来の諸相を示唆し象徴しているように思えてならない。尊敬する或る潮陵の哲人曰く、「歴史と先人を大切にしない教養欠如の文化土壤に将来有為の人材は育たない」と。悲しむべきは何処の人か。主管する小樽市教育委員会は何を考え終焉の決断を下したのか。昨今何処の教育委員会も人材育成能力欠如が問題視されている。果たして故郷は。市幹部職員、在樽潮陵OB、現潮陵関係者の存在や如何ならんや。箴言に、貧すれば鈍すると言う。財政貧苦は文化滅する都市転落か。生まれ育った我が精神文化風土の小樽凋落の象徴を『悲しき終焉』と視座し迎え歎ずる。水天宮境内の歌碑は日本海の荒波を押し向かい建つ。石川啄木の『かなしきは小樽の町よ 歌うことなき人々の 聲の荒さよ』に懐かしき故郷の精神文化風土を重ね苦吟しつつ凋落の道程を慨嘆する。

**[48期] 小島黎子**(福生市) 至って元気に暮らしています。昨年、樽中33期の主人を亡くし、最近やっと諦めがつきました。毎年東京で同期会をやっていますが年を追う毎に出席者が減り、それでも30人近くは集まり一気に青春時代に戻ります。 **武田美通**(比企郡) 鉄を素材とする彫刻を続けています。機会がありましたら、私の名前をPCで検索してみてください。

**[49期] 高野真一**(多摩市) 程々に元気で暮らしています。この8月で喜寿を迎えます。 **松塚幸司**(横浜市) お陰様で元気に過ごしております。

**[50期] 小川礼子**(千葉市) 病院通いに忙しい最近です。 **蛸島義弘**(入間市) 朝晩の愛犬散歩とジム通い。月1回のGolfに備えて、打込み継続。定例の飲み会には必ず参加! 持病の高血圧症と睡眠時無呼吸症候群とも仲良く付き合っ、元気に過ごしていきたいと思っております。よろしく! **町田榮一郎**(江戸川区) 小樽の坂道、60年前だったら、カケ足で上れたんだ。卒業して半世紀以上たった人です。 **森川忍**(入間市) 福島郡山市在住の一人娘の子の二人(中3、小5)も放射能に怯えて暮らしており、日本の社会と子供・孫の将来の安全と生命保証のためにも、と反原発の国民運動に、2年前から関わっています。会員各位にも広く原発廃絶を訴えたいです。

**[51期] 大木恵子**(横浜市) 元気にしております。 **佐々木允明**(横浜市) 故郷が次第に遠くへ霞んで行きます。思い出の街角や山野は今どのようだろうか? **住友忠明**(小平市) すこぶる元気で毎日、通勤しています。 **鳥谷部昭夫**(我孫子市) 何かと元気でゴルフを楽しんでいます。 **野田徹**(さいたま市) 相変わらず仕事を楽しんでやっています。 **水上真吾**(狛江市) 相変

わらず元気です。

**[52期] 岩木義明**(横浜市) 元気でやっています。

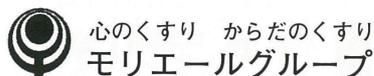
**[53期] 浜田晴江**(横浜市) 元気にしております、明石在中の100才の義母との同居でしばし、横浜を離れています。とにかくしっかり頭で元気な100才なので負けそー、です。 **堀内昭忠**(春日部市) 野外活動に参加します。 **鷲巣みち子**(さいたま市) 成まで頑張ります

**[54期] 小川原康文**(鎌ヶ谷市) 加齢と共に持病が増えました。が家庭菜園を楽しんでおります。 **関捷一**(鎌倉市) 何かと元気に余生を楽しんでいます。 **畑田晴子**(富士市) 世界遺産になった富士山をながめ元気にすごしております。 **藤田幸久**(横浜市) 4月末でIT企業の相談役を退任し、完全な年金生活者となりました。趣味のミステリー創作は、ペースを落としています。が続いています。またブログも継続し、最近アクセス数が13万件を超えました。週2回のジム通いも継続し、健康維持に努めています。 **生瀬良造** 9月29日から開催される東京国体へ成年女子バレーボールの東京代表(大学選抜チーム)で出場することになり、当日は第一回の強化合宿期間と重なり欠席いたします。今大会は昭和35年(潮陵10期生が高校3年時に開催)以来53年振りの東京開催で、潮陵時代は全道大会で2位となり出場を果たせなかった大会でしたので感慨無量です。

**[55期] 堀井紘一**(あきる野市) 6月27日より、あきる野市へ転居します。 **箕輪隆平**(中野区) 古希を過ぎましたが何かと元気にやっています。 **矢後勝洋**(世田谷区) 盛岡での勤務を終え12年ぶりに東京に戻ってきました。 **大村麗子**(榛原郡) 元気に過ごして居ります。次回は出席したいと思っております。

**[56期] 加藤義雄**(上尾市) 7/28~8/1のスケジュールで私共夫婦と娘、孫とで札幌、旭川、小樽など々旅行します。今から楽しみです。 **新谷興一郎**(流山市) 小生、大阪で定年退職後、流山市に移り住んで10年4月で古希を迎えましたが、年齢相応に月1回の通院はあるものの、元気に過ごしております。小樽の実家は、5年前に解体処分をしましたので、故郷を訪れる機会が少なくなりました。元気なうちに小樽を訪問、母校の丘、五百羅漢など散策したいと思っております。 **牧口裕貴子**(八王子市) 年相応に元気です。(在宅でのお仕事も継続中)

**[57期] 安西ミヤ子**(さいたま市) 6月14日に北海道で50周年目の同期会に初めて出席させて頂きました。 **飯村淳子**(流山市) 6月14日に小樽潮陵高校57期、卒業50周年同期会がありました。恩師4名、参加生徒合計124名と大盛況でした。自宅近くの、水天宮のお祭りで、楽しく懐かしい思い出ができました。 **石森洋子**(柏市) 小樽で50周年同期会に出



## 増田商事株式会社

代表取締役 **増田裕二** (48期)

東京都新宿区新宿3丁目32-4 松井ビル3F  
TEL 03-3352-6015 FAX 03-3358-5354

## 小樽新倉屋

代表取締役社長 **新倉吉晴** (54期)

〒047-0024 小樽市花園1丁目3-1  
TEL 0134-2-2121  
<http://www.niikuraya.com/>



俳句というと松尾芭蕉の「古池や」を思い浮かべるかたが多いかと存じます。五七五の簡素な詩であり、そこに「季語」が入っていることをご存知のかたも多いでしょう。上京して十年経った頃、私は俳句を始めました。当時悩んだのは、歳時記に載っている季語のほとんどが本州を基準としていることでした。子どもの頃に梅雨を経験していない、動植物も本州とはかなり違う……。東京で普通に暮らしているつもりが、突然、育った環境と今置かれている環境との違いに気付かせられたわけです。

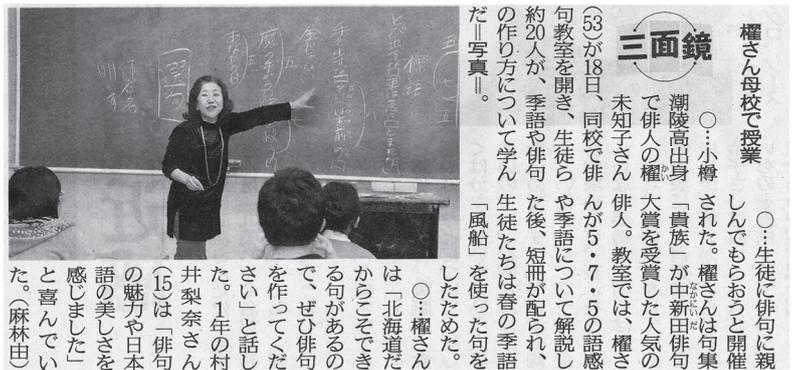
しかし、季語を勉強しているうちに、見えてきたものがありました。たとえば、つねに太陽が出ている冬しか知らない東京の人達と、「明日、雪はどのくらい降るのか」と不安げに空を見上げる小樽の人達が、「春」という言葉に対してどんなイメージの違いを持つのだろうか、ということです。太平洋岸の人達が「春」を口にする時と、雪に閉ざされていた地域の人達が「春」と言う時の思いは明らかに違う、それを俳句は気付かせてくれました。

季語に関して、北海道在住の俳人さん達は、明らかにハンディキャップを負っています。桜は東京よりも一か月以上遅く咲くし、秋は駆け足で過ぎ去り、気付けば長い冬になってしまっています。しかし、本州とは異なった気候だからこそ、できる俳句があるのではないかと、何年前から北海道での「出前句会」を始めました。さらに、母校・潮陵高校でも俳句を始める在校生が出てはくれないかと、ミニ講演及びワークショップめいたことを試してみました。春の季語である風船を膨らませ、それを一句にして貰ったのです。それは、ここ数年指導している東京の開成高校の俳句部が、愛媛県松山の「俳句甲子園」で

毎年のように優勝か準優勝をしていることに刺激されたからです。母校ではない学校の指導を自分は何年もしている、しかも結果は出ている。ならば、母校をちゃんと指導しよう、いつの日か俳壇を担う人が潮陵から出るかもしれないと思ったのでした。当日は、自分の意見を言うことに慣れていない在校生たちの初々しさを可愛く思い、と同時に、「もっと言っていいのに」と多少歯がゆく感じつつ、校門を後にしました。

今春より「NHK 俳句」という、Eテレの番組と雑誌が連動している企画に選者として出演、そして執筆します（二年間の予定）。俳句を始めた頃は想像もしていなかったのですが、たとえ愚かでも懸命に続けていけば、その分野での仕事を任されることがあるのだと知りました。

夢を持つのは大事なことです。しかし、もっと大事なのは、夢を実現すべく行動を起こすことです。俳句という、ごく地味な分野ではありますが、馬鹿にされ、男尊女卑の嵐に見舞われながら、私は自分の道を模索してまいりました。これから始めるかたたちには、もっと平坦な道がひらけているはずです。本業である仕事、そしてもう一つの自己実現。どちらも素敵ですね。



北海道新聞 2013年11月19日(火)掲載

寄稿 『感謝と初心を忘れずにいたい』 東京藝大大学院音楽音響創造研究分野修士二年 直江 香世子 (100 期)



東京潮陵樽中会の皆様はじめまして、潮陵 100 期生の直江香世子と申します。今回このような機会に恵まれました事に大変感謝しております。私は現在、東京藝術大学大学院にてコンピュータ音楽を含む現代音楽、そしてアニメーション・映像と音楽のコラボレーションについて学んでおります。また 2010 年からは作編曲家・ピアニストとして、毎年大晦日に札幌で行われる「HTB・朝日ジルバスターコンサート」のオーケストラ・アレンジや、アーティストへの楽曲・アレンジ提供、そして色々な場所でピアノ演奏をさせて頂いております。まだまだ駆け出しの身ではありますが、今後は今よりもたくさんの方々に自分の音楽を届ける事が出来るよう日々精進してまいります。

実は音楽系の大学へ進もうと決意したのは高校 2 年生の冬、進路最終決定の日でした（それも親に内緒で…）。小学生の頃

から漠然と医療系の仕事がしたいと思っておりましたが、高校生になると自分が何をしたいのかわからなくなっていました。恥ずかしながら勉強にも手がかず、悶々と日々を過ごしておりました。そんな中、当時所属していた音楽部の顧問である廣原誠先生をはじめ、地元の中学校の友人達が『あなたが本当にやりたいことは音楽なんじゃないの？今諦めたら、一生後悔するんだよ』と背中を押して下さったのです。ピアノは小さい頃から習っておりましたが、どちらかというと、レッスンで習うクラシック音楽よりも TV で流れる音楽などをアレンジして弾く事が大好きでした。当時の私は「音楽は完全なる趣味」と割り切っていましたが、実際は「音楽の世界は厳しいから」と、はなから諦め逃げていたのだと思います。その一方で、高校 1 年生の冬に廣原先生が「次回の音楽部定期演奏会の 1 ステージ分を合唱編曲してみないか」とご提案下さり、そこで編曲の楽しさを再認識した事により、音楽への憧れもより確かなものになっていきました。音楽の分野にしては非常に遅すぎるスタートでしたが、そこからは作曲専攻の入試に必要な勉強を精一杯

始めました。最初は反対していた両親も、許してくれてからは全面的に私を毎日応援してくれました。

1年後、色々な方のご支援のおかげで北海道教育大学岩見沢校の作曲専攻に入学しました。大学ではクラスメイトのピアノ伴奏をしたり、コンサートのアレンジをしたりと、本当に音楽漬けの日々でした。そして、そこでの仲間との出会いは私の音楽活動にとってかけがえのないものになりました。クラシック音楽も、色々な視点から見つめ直す事ができ、大好きになりました。

特に、ヴァイオリニストの林ひかる、ソプラノ歌手の中江早希、フルーティストの按田佳央理とは、現在「Sprung Rhythm」というユニットで演奏活動を続けています。2013年には、林ひかるとCD「涙のあとに・・・」をリリースすることが出来ました（Youtubeや私のウェブページに音源がございますので、ご覧頂けると幸いです）。

高校・大学時代を振り返ると、自分は本当にたくさんの素敵な方々に恵まれたのだと感じます。高校時代にそのまま音楽の道を諦めていたら…と考えると、友人の言った通り、一生後悔していただろうと思わずにはいられません。たくさんの方々の



支えがあったからこそ、今の自分があるのだという事を決して忘れずに、そしてその方々のあたたかいご支援を無駄にしないよう、今後も精一杯音楽に向かい合って行きたいと思います。

\*直江香世子ウェブサイト

<http://kayokonaoe.wix.com/home>

\*Sprung Rhythmウェブサイト

<https://sites.google.com/a/k-naoe.com/sprung-rhythm/>

## 学校短信（平成26年2月25日）

小樽潮陵高等学校 校長 湯田恭丈

佐々島会長はじめ東京潮陵樽中会の皆様には、日頃より本校教育活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本校の近況につきましてご報告させていただきます。

### 引き継がれる文武両道の伝統

平成25年3月には第107期生が卒業しました。勉学・部活動に良く頑張り、現役浪人あわせて北海道大学医学部はじめ137名が国立大学に合格しました。平成25年4月8日、男子131名、女子149名、計280名の新入生を迎えて全校生徒836名で平成25年度が船出いたしました。

文武両道の伝統は引き継がれ、90%以上の生徒が何らかの部活動に加入して、勉学と部活動との両立に汗する姿が見られました。中でも高体連サッカーではサッカー部創部45年目で初の全道ベスト4進出を果たし（公立高では潮陵だけです）、あと1勝で全国大会出場というところまで勝ち上がりました。また、野球は夏の甲子園で後志地区大会決勝まで駒を進めました。北照との代表決定戦では3回表まで2-0でリード、6回表までは2-2の同点、結果は3-2で敗れましたがすばらしい試合内容でした。8月、吉田紗奈江さんがインターハイ陸上800mに出場し2分14秒44の自己ベストで小樽後志新記録を樹立しました。7月末には放送部員4名がNHK放送コンテスト全国大会に出場し、創作テレビ部門で優良賞（全国4位）を受賞しました。またラグビー部の米山忠宏君は合同チームラグビーフットボール大会に北海道選抜チームで全国大会出場を、さらには10月には文芸部が詩部門で高文連北海道東北文芸研究大会出場を果たしました。あわせますと文化系では10、体育系では18の部活動が全道大会に出場しました。

### 同窓の皆様のご支援・ご協力に感謝

10月7日、小樽藪半社長の小川原格氏を本校にお招きして、社会で活躍するOBによる職業講話として2学年全員を対象に「まちづくりと蕎麦屋」という演題でご講演いただきました。また、10月16日、北海道庁くらし安全局長浜田美智子氏による、1学年全員を対象にした職業講話が開催されました。社会人になるということ、働くということ、潮陵高校での出会いを中心に話いただきました。詳細はHPをご参照下さい。

また、11月18日、東京でご活躍中の俳人 權末知子さんによる俳句教室が本校で開催されました。是非、後輩に俳句甲子園を目指してほしいという權さんの熱い思いで実現しました。当日は新倉同窓会長夫妻ほか20数名が参加し、現在文芸部を中心に俳句甲子園出場への気運が高まりつつあります。

11月17日、山内進一橋大学長が来札の折に、短時間ですがご懇談する機会をいただきました。高校時代の楽しかった思い出に話が咲くと同時に潮陵の伝統と進取の精神の一端に触れることができました。また、10月26日、小樽市内の小学校生徒保護者を対象に、市PTA連合会主催で市民会館において市内高等学校8校が合同で高等学校説明会が開催され、その折、各界でご活躍するOBをご紹介させていただき、「社会へ出て潮陵」をアピールいたしました。

活躍する先輩達の姿は在校生にとって人生の指針そのものであり、また目標でもあります。世代を超えたつながりの持っ力を在校生の糧としながら、未来への架け橋としての本校生と潮陵の伝統を大切に育ててまいりたいと存じます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 事務局からのお願い

皆様ご承知のように、本会は会員間の懇親と母校支援を主たる目的としています。平成25年度の総会では、今後の事業方針として「懇親機会の充実に加え、母校支援にも力を注いでいく」こととしました。

一方、この事業方針に沿った事業を推進する上で、二つの大きな課題を抱えております。その1) 当会事務局で連絡先等の情報を把握している会員の多くは60歳以上の方々であり、60歳未満の会員情報を把握しきれていないこと。その2) 会費の納入・寄付が激減しており、事業推進の原資が不足していること。

課題その1) については、その対処として、①昨年11月に各期幹事に依頼し、同期連絡先情報の精査・更新、②本年3月

1日挙行の母校卒業式において、関東・東京圏へ新たに居住することになる新卒生徒（およびその姉妹等の若年同窓生）へ「歓迎します。まずは本会へご一報を。」を旨とする文書の配布、等を実施しました。

課題その2) については、会費・寄付を納入頂けている方はごく一部に留まり、特に平成25年度では100人強となっております。この状況・傾向が継続すると諸事業推進はもとより、総会開催案内の送付すら困難となる見込みです。

つきましては、下記の「連絡先情報の登録・更新」と「会費納入と寄付・広告協賛」についてご協力をお願い申し上げます。

### ●連絡先情報の登録・更新について

皆様ご自身の連絡先等の情報更新と、同期のご友人へ登録・更新の促しをお願い申し上げます。なお、通信費の節約のために、パソコンやスマホで電子メールをお使いの方はメールIDの登録をお願い致します。

- 1 郵送:事務局長 岸田 仁 宛  
〒226-0012  
横浜市緑区上山3-39-16-D302
- 2 電子メール info@choryo.org
- 3 ホームページ経由 <http://www.choryo.org/>
- 4 Facebook経由 ページ“東京潮陵樽中会”

### ●会費納入と寄付・広告協賛について

年会費は2,000円です。次のいずれかの方法でお振込をお願い申し上げます。なお、広告協賛につきましては事務局までご連絡をお願い申し上げます。

#### 1 ゆうちょ銀行の払込取扱票による振込みの場合

- ①口座記号は「00180-8」
- ②口座番号は「61069」※右詰
- ③加入者名は「東京潮陵樽中会」

#### 2 ゆうちょ銀行からの振替(記号番号で電信振替)の場合

- ①送金先口座は「00180-61069」
- ※払込取扱票での口座記号末尾「-8」は不要。

#### 3 ゆうちょ銀行からの振替(店名で電信振替)の場合

- ①店名は「ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキュウ)店」
- ②口座種別は「当座」
- ③口座番号は「0061069」

#### 4 他の金融機関(ゆうちょ銀行以外)から振込の場合

- ①銀行名は「ゆうちょ銀行」
- ②店名は「〇一九店(ゼロイチキュウ店)」
- ③口座種別は「当座」
- ④口座番号は「0061069」

## 役員・幹事

役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期
顧問	大浦 辰次郎	(全54期)	幹事	増田 裕二	(全48期)	幹事	瀬塚 孝	(全61期)	常任幹事	木戸 敬太	(全77期)
会長	佐々島 宏	(全65期)	幹事	六郷 民治	(全49期)	常任幹事	高橋 昭	(全61期)	幹事	織田 めぐみ	(全79期)
副会長	仲川 正子	(全56期)	(連絡係)	蛸島 義弘	(全50期)	常任幹事	武田 立	(全62期)	(連絡係)	鈴木 幸子	(全81期)
副会長	今日 日出夫	(全67期)	常任幹事	上諏訪 一明	(全51期)	幹事	西谷 謙司	(全62期)	常任幹事	柳原文	(全82期)
監事	佐竹 茂市郎	(全63期)	幹事	金栄 紘夫	(全53期)	幹事	前野 一夫	(全62期)	常任幹事	佐々木 文雄	(全85期)
事務局長	岸田 仁	(全67期)	常任幹事	永野 茂	(全54期)	常任幹事	橋本 明久	(全64期)	幹事	宮野 人至	(全86期)
事務局次長	福井 早枝子	(全65期)	常任幹事	寺岡 恵美子	(全56期)	常任幹事	滝沢 純	(全65期)	常任幹事	小葉松 知行	(全90期)
事務局次長	番匠 博隆	(全65期)	幹事	間 利弘	(全58期)	常任幹事	南澤 孝夫	(全65期)	常任幹事	小島 綾乃	(全90期)
常任幹事	劔物 治郎	(全45期)	幹事	稲澤 君夫	(全58期)	幹事	広田 直行	(全72期)	常任幹事	苫 孝二	(定64期)
幹事	島 雄一	(全46期)	常任幹事	東口 豊	(全59期)	幹事	和田 一男	(全74期)			
常任幹事	上野 淑子	(全47期)	幹事	柳田 眞典	(全60期)	幹事	飯田 恵之	(全77期)			

平成25年12月1日現在

発行日 平成26年3月末日

編集発行人 東京潮陵樽中会 番匠博隆 (65期)

デザイン 小島綾乃 (90期)